

シューズ検定について

今大会は競技注意事項第1項にもある通り 2021 年度日本陸上競技連盟規則により実施するため、各競技者は日本陸上競技連盟競技規則 TR5 に則ったシューズを使用して下さい。特に今年度からは基準よりも厚いシューズを履いて競技を行うことはできず、仮に基準よりも厚い靴で競技を行った場合は失格となるので十分な注意をお願いします。ただ、やり投げでの旧規格のスパイクに関しましては日本陸連より適用除外となっていて、1次点呼の際に自己申告していただく形となります。詳しくは下記文章を必ずご確認ください。

競歩と障害物競走を除く 1500m 以上競技において靴底の厚さ計測を実施します。1500m、3000m、5000mに出場される選手は全員必ずレースで使用するシューズを所定の時間に1次点呼(○付け)場所(100m スタート付近)の横の検定所を持っていき、シューズ検定を受けて下さい。検定を受けない場合は出走が許可されない可能性があります。検定の時間は以下の表の通りです。

種目	開始時間	終了時間
男子 1500m 1 組目	7 : 30	8 : 45
男子 1500m 2 組目	7 : 30	8 : 55
男子 1500m 3 組目	7 : 35	9 : 05
女子 1500m	7 : 45	9 : 15
男子 3000m	9 : 30	11 : 00
女子 3000m	9 : 50	11 : 20
男子 5000m 1, 2 組	12 : 45	14 : 15
女子 5000m	13 : 25	14 : 55

※各種目基本的には競技開始 2 時間前から 30 分前までです。

※男子 1500m のみ早朝のため短くなっていますのでお気を付けてください。

競技者が他の種目に出場中の場合のみ代理人での検定を認めます。検定時間終了後に使用するシューズの変更があった場合は至急検定所にて臨時検定を受けてください。

学連 1 戦にて TERTHER シリーズを持ってくる方がいらっしゃいましたが、TERTHER シリーズは ASICS 設計値より WA 規則を満たしておりませんのでレースでの使用はできません。お気をつけください。

やり投げ種目のスパイクについて重要なご連絡です。やり投のスパイクに限り、2021年2022年の2年間、旧規格のスパイクの使用を認めるとの通達が日本陸連よりございました。（旧規格のスパイクはかかとの部分よりつま先の靴底の方が厚くなっている。現在は各メーカーとも規格に合ったものを製造・販売している。）よって、やり投げ種目において旧規格のスパイクを使用する場合は1次点呼の丸付けの際に旧規格使用かどうかのチェック欄を作りますのでチェックをよろしくお願いします。旧規格のスパイクを使用する場合は記録表に規定外シューズ使用と記載されますが競技への参加は可能で、記録は公認となります。ただし大会記録、学生記録としての認定はされません。1次点呼の際に旧規格のチェック欄にて自己申告をせずに参加した場合は失格となり、その大会での記録は無効となるので注意の程お願いします。

参考資料：TR5 各競技の最大の靴底の厚さ

種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考
フィールド種目 (三段跳を除く)	20 mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く長さを競う跳躍種目に適用。全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25 mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、後ろの中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
ハードル種目を含む 800m 未満のトラック種目	20 mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
障害物競走を含む 800m 以上のトラック種目	25 mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは、道路競技と同じとする。
競歩種目	40 mm	

上記の表は日本陸上競技連盟競技規則からの抜粋となっております。詳細は日本陸連ホームページより競技規則第 1 部総則 TR5 の欄をご確認下さい。

日本陸連ホームページ_ルール・ハンドブック

<https://www.jaaf.or.jp/about/rule/>